

インターバンクの声（2017年10月5日）

ロンドン市場で112円台前半までドル売り・円買いが進んでいたドル円は、ニューヨーク市場の序盤に発表された二つの経済指標がともに市場予想を上回ったこともあって米長期金利も上昇、ドルが112円台後半まで戻している。

最初に発表されたADP雇用統計は、相次いだハリケーン被害の影響もあって民間の就業者数の増加が限定的となったが、市場予想は上回ったことで、金曜日に発表される雇用統計もそれほど悪い数字にならないとの見方に繋がっている。

ADPの後に発表されたのがISM非製造業指数で、13年4ヵ月ぶりの強い数字となったISM製造業指数に続いて12年ぶりの高水準となったことから、FRBの12月利上げをサポートする格好になった。

経済指標と共に足元の相場に影響しているのが次期FRB議長の選任問題だ。

タカ派寄りのウォーシュ元FRB理事が有力視されているとの報道もあったが、今度はハト派寄りのパウエルFRB理事が選ばれる可能性が高いとの見方が伝わってきた。

トランプ大統領が近日中に最終判断を下すとも伝わっており、雇用統計が済めば次はFRB議長が誰になるかが注目となりそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。